華南と華中の万人坑と中国人強制連行

青木茂

日本で話題にされ議論される中国人強制連行・強制労働のほとんどは、日本国内に連行されてきた約４万人の中国人被害者に関することだけであり、中国本土（大陸）における中国人強制労働が日本で話題にされることはほとんどないと思う。

しかし、日本が傀儡国家「満州国」をでっち上げた東北（中国の東北地方）や、中国からの分離を画策した華北で強制連行・強制労働が行なわれたことを漠然とでも知っている人は少なくないとも思う。そして、ここで結論だけを示すと、強制労働を強いられた中国人被害者は東北で１６４０万人、華北で２０００万人にもなるというのが史実だ。

それでは、中国の南部や中部における強制労働の実態はどうなのだろう？　この疑問に対する回答の一端を示すのが、８月に出版した『華南と華中の万人坑』だ。そして、こちらも結論を先に示すと、最低でも 10 万人単位、おそらく１００万人単位の強制労働が､華南と華中のそれぞれで強行されているというのが私の結論だ。

華南の被害者は１００万人超

例えば、華南の中でも最南端に位置する海南島における強制労働のうち、私が実際に訪ねて確認した強制労働現場と万人坑（人捨て場）の犠牲者数（死者数）は、石碌鉱山の鉄鉱石採掘作業で３万人、石碌鉱山で産出する鉄鉱石の積み出し港となる八所港と鉱石搬送用の鉄道などの建設工事で２万２０００人、田独鉱山の鉄鉱石採掘作業で１万人、陵水后石村での日本軍飛行場建設などの土建工事で５０００人である。

海南島には、これ以外の事業にも膨大な数の日本の営利企業が進出し、重要金属を採掘する各地の鉱山開発や、鉄道や道路建設など産業基盤整備や、飛行場などの軍事基地建設や、各種の農業開発が膨大に行なわれたので、海南島を含む華南における強制労働の被害者数が１００万人単位になるのは確実だと思われる。

華中の被害者は最低でも１０万人単位

一方、華中に現存する強制労働現場と万人坑のうち私が実際に訪ねて確認したのは、南京から百数十キロほど西方に位置する淮南（わいなん）炭鉱だけだが、淮南炭鉱１カ所の強制労働だけで数万人が死亡し、大規模なものだけでも数カ所の万人坑が残されている。

淮南炭鉱に強制連行された被害者は、人数が正確に分かっている３年間に限っても７万人を超えるので、７年に及ぶ淮南炭鉱の占領（操業）期間全体では被害者数が 10 万人を超えるのは確実だろう。

そして、長江流域を含む華中には、軍事基地構築や道路建設など淮南炭鉱以外にも多数の強制労働現場が存在しているので、最低でも 10 万人単位の強制労働が華中で強行されたことに疑問の余地はない。

これが、華南と華中における強制連行・強制労働の実態だ。そして、中国本土における強制労働被害者は全体で４０００万人（概略）にもなるというのが私の結論である。

（撫順の奇蹟を受け継ぐ会・会員）

写真の説明

八所港旧址：中国人の強制労働で造られた八所港は、１９４５年の３月と４月に行なわれたアメリカ軍による空爆で完全に破壊された。しかし、石材を積み上げて造られた埠頭（岸壁）の一部が波打ち際に何カ所も残っている。

淮南炭鉱大通万人坑：大通万人坑教育館（博物館）に３カ所の万人坑発掘現場が保存されている。これは二番目の発掘現場で、ここだけで２０００体ほどの遺体（遺骨）が埋められている。

『華南と華中の万人坑 - 中国強制連行・強制労働を知る旅』

青木茂著

この本は、『万人坑を訪ねる - 満州国の万人坑と中国人強制連行』『日本の中国侵略の現場を歩く』『華北の万人坑と中国人強制連行』に続く第４弾。中国の華南と華中に現存する万人坑と、その背後にある中国人強制連行・強制労働の惨状などをルポ形式で紹介しています。

青木さんは、これまで何度も中国本土を歩き回り強制労働と万人坑の現場を調査し、そのうえで、中国での被害者数は４０００万人（概略）にもなると結論づけています。

発行＝花伝社、１７００円＋税。